

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200744	事業の開始年月日	平成29年10月1日
		指定年月日	平成29年10月1日
法人名	湘南乃えん株式会社		
事業所名	グループホームえん		
所在地	(251-0861) 神奈川県藤沢市大庭5137-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年10月18日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新型コロナウイルス感染症に伴い、直接 面会などはできておりませんが、オンライン面会・ソーシャルディスタンスをとり短い時間ですが面会も行っております。また、グループホームとして第二の我が家として、家庭的に雰囲気でも過ごされるよう 買い物等混雑を避け行ってありますが、現在は移動スーパーが週4日来られ、入居者様とともに買い物をし、食材を買ってみたり、入居者が食べたいものを直接見て選んでいただけるようになっております。また、入居者様の重度化に伴い医療との連携を行い、身体状況の悪化の防止及び認知症の進行の防止に重点をおいて取り組んでいます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月21日	評価機関 評価決定日	令和5年5月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR東海道線「辻堂」または「藤沢」駅からバスに乗り、最寄りのバス停から4分程に立地し、同一法人の通所介護事業所を併設しています。近隣にはレストラン、コンビニエンスストア、公園、大型商業施設があります。

<優れている点>

買物や食事作りなどを介して我が家と変わらぬ雰囲気作りを目指し、利用者に寄り添ったサービスを提供しています。法人の事例発表会や委員会活動、教育担当者を決めた技能実習生の指導は職員の技能向上となっています。近隣から職員を採用しており、災害時には職員や利用者の家族の安否確認が取りやすい環境です。休暇取得や勤務体制など「職員間のお互い様」の思いが働き易い職場環境となり永年勤続者が多数在籍しています。プライベート保護規定を遵守し、利用者の昼夜の相違点などを可視化して認知症の進行状況を家族に伝えています。併設のデイサービスから事業所へ入居する人が多く、日頃の交流から顔なじみの関係性が保たれ利用者相互の安心に繋がっています。医師の確認のもと誕生日に飲酒をするなど、入居前からの生活習慣の継続支援をしています。

<工夫点>

デイサービスと合同で同一内容の法令研修を別日程で開催し全職員が参加しやすいようにしています。移動スーパーの導入により食材購入の時間短縮や利用者の嗜好品選びなどをコロナ禍でも楽しみながらできるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームえん
ユニット名	1F さんご

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所目標・理念等、事務所に掲示し、会議・朝礼・面談時に確認を行っている。	事業所の理念は事務所への掲示や会議などで周知しています。理念に基づく年度事業目標「成長するえん・繋がるえん・支え合うえん」を設定し、買物や食事作りなどを通して我が家と変わらぬ雰囲気作りを目指し利用者に寄り添ったサービスを提供しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症の為に交流できていません。今後、陽性患者数が落ち着いたらボランティア等以前のようにかかわれるようにしていきたいと思います。	小糸町内会に加入し、回覧を介して地域の行事を把握し参加していましたが中学生の職場体験同様、新型コロナウイルス感染症防止のため中断しています。インフルエンザの流行も見極めながら、従来より来訪している書道などのボランティアとの交流を再開する意向です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方、問い合わせ等、随時行っているが、職場体験等の受け入れは昨年同様行っていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の為に、開催は行えていませんが、地域の役員の方から電話をいただいたりしています。	運営推進会議の委員は、利用者家族、自治会長、民生委員、近隣住民、藤沢市の職員です。コロナ禍の今年度は、奇数月に文書開催をしています。電話連絡時に委員から労いの言葉を貰っています。	活動状況や利用者の状態などを記した会議録を委員に送付しています。その際に参加者の意見を聴取する工夫をして、それらの意見を事業所のサービス向上に活かすことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	昨年同様、藤沢市グループホーム連絡会の開催は行われていませんが、介護保険課・他事業所の管理者との連絡は随時行っています。	藤沢市の職員が参加する藤沢市グループホーム連絡会に参加した際に、困り事や不明な点を職員に尋ねるなどして協力関係を築けるようにしています。生活保護費受給者やコロナ禍で中断している生活相談員の受け入れで藤沢市の担当職員と連絡を取り合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を開催し、○えん研修にて研修を行っています。また、日中は施錠せず 天気の良い日は玄関を開け換気し、屋外の出入りを行えるよう取り組んでいます。	利用者の生活パターンや行動を把握し安全に配慮した上で日中は玄関などの出入口を開錠しています。身体拘束虐待委員会及び研修を定期的に開催しています。身体拘束虐待委員が中心となりスピーチロックが拘束にあたる事などを研修で再確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に虐待委員会を開催し、○○えん研修にて研修を行い、現場で起こりえることを想定しみんなで考え取り組んでいる。	重要事項説明書に虐待防止について明記しています。身体拘束虐待委員会及び研修を定期的に開催し職員は、身体的虐待のみならず、心理的虐待が含まれることを理解しています。管理者は虐待行為を発見した場合の対応について職員に周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	面接・会議・研修等行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様・ご家族の不安や疑問をくみ取り、十分な時間を設け説明し契約を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話・面会等の際は近況のお話を行い、利用者様・ご家族からの意見等反映できるよう努めています。	毎月の請求書送付時に利用者個々の様子を記した手紙を同封して家族などに伝えています。家族会はコロナ禍で中断しています。電話連絡の際に家族から把握した面会希望の意見は感染状況を判断しながらビニール越しやオンラインの面会を実施し反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議・全体会議、日常の会話の中から職員の意見を聞き反映できるよう努めています。	職員の意見・提案は管理者が年2回の個人面談や日々の会話、ユニット会議などで吸い上げています。会議に参加できなかった職員も会議録の回覧で内容を共有します。職員の「移動スーパーを活用しては」との提案を法人と協議しサービスに反映しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常に職員とのコミュニケーションを大切にし、各職員の得意分野を知ること、委員会など仕事をするうえで責任をもち、お互いが刺激となり知らないことを知ることによって質の向上が持てるよう努めています。	法人代表者が頻繁に来訪しています。「OJT評価」の仕組みがあります。介護福祉士などの資格取得者や永年勤続の職員が多数在籍しています。管理者は職員のストレスや技能実習生の文化の違いなどの要因に気を配り、職員の間関係の把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	上記と重なるところがありますが、各職員選択研修を選び、また、向上してほしい課題など研修に取り組んだり努めています。	職員は年間研修計画に基づき研修を受講しています。研修レポートを作成し学びを深めて内容を共有しています。法人主催の事例発表会や委員会活動は職員が協力して取り組み、職員の技術向上となっています。新人職員や技能実習生の指導は、教育担当を決めて行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	3年・7年目研修とありますが、新型コロナウイルス感染症等もあり中止となっていることがあります。また、デイサービスが併設されているため、デイサービス職員合同の研修を行っています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来ること・出来ないこと・困っていること生活習慣等、常にコミュニケーションをとり、行動観察記録などで情報収集を行い、少しでも不安がなくなるよう努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学・問い合わせ時にも伺っておりますが、再度契約時・入居後にご家族に伺い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅での生活リズムや困っているところや工夫されていること等をきき、ご本人・ご家族の要望等をきき計画書に反映できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の気持ちを大切にし、残存機能の維持及び認知症の進行を遅らせるよう生活の中で、自分のできることを行っていたくとともに、家事等みんなで助け合っ生活できるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	請求書と一緒に1か月の生活等の報告（ご家族の手紙）を郵送し報告しています。また、面会等でお会いできないご家族には電話にて報告したりし、体調面等一緒に考えて行っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症の為、馴染みの人や場所には行かれていませんが、馴染みの店の店員に協力していただき、ソーシャルディスタンスをとりながら話をいただいています。	現在はコロナ禍で中断していますが、以前は友人が来訪し馴染みの人との関係が保てるよう支援しています。医師の確認のもと、誕生日に家族が持参したワインを飲んだり、化粧をしてお洒落を楽しむなど、入居前からの生活習慣を継続できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症状・耳が聞こえずらい等ありますが、コミュニケーションがとれるよう職員が間に入り、関わりあえるよう工夫し、利用者様同士が車いすを押す姿がみられたり、困っているときのお互いの声かけの様子がみられています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても、いつでも連絡・相談等できるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族からの希望等を伺いますが、日常会話・行動・仕草の中から、情報収集を行い、アセスメント・カンファレンスを行い、ご本人の希望により添えられるよう努めています。	家族からの聞き取りや日常の表情、仕草、行動パターンを職員全員で観察しています。利用者の思いを大切に傾聴しています。伝わらないことを諦めずに傾聴し、「本当は缶コーヒーが飲みたいのだ」と理解した事例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初回等の話からでは聞き取ることが難しいため、随時ご家族・ご本人から話を聞き取り、会議等で把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント・カンファレンスを行い、日常の会話・行動・仕草の中から情報収集を行い、記録（行動観察記録）をとり、会議等で把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人・ご家族の意向を確認するとともに、医療との連携も行い、また状態変化した際もカンファレンスやアセスメントを行い随時検討し作成を行っています。	家族、利用者からの聞き取り後に医療チームと管理者、ケアマネジャー、職員で合議しケアプランを作成しています。ケアプランの変更が必要と判断した時は、家族、医師と相談し修正を行います。基本的に6ヶ月でケアプランの大きな見直し変更をします。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画書の実施・生活の様子等記録に残すとともに、カンファレンス・会議等で話し合い随時見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染症の為外出が難しく、現在読書に好きな方がいらっしゃるた為、職員で話し合い図書館の方がご本人の好みをきき届けていただけるサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	密にならないよう気を付け、散歩を行っています。また、買い物が難しいこともあり、職員で話し合い、移動スーパーを週4日来ていただき、一緒に買い物を行い、好きなものを購入した際は喜ばれている姿がみられています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご家族受診または訪問診療にされるのか確認を行い、その際は情報等共有し医療連携を図っています。	入居時に説明を受け、事業所の協力診療医に変更していますが、従前のかかりつけ医への対応も家族の協力で行っています。内科と歯科の訪問診療は月2～4回ですが、緊急診療も随時の対応となっています。診察結果の記帳と処方薬管理は2人体制で行います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問診療時に、情報を伝えアドバイス等いただいたり、週1回の看護職員には、職員とノートを活用し情報を共有し適切な看護が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やソーシャルワーカーとの連携をとり情報交換を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に説明を行い、早い段階からご家族・医師等話し合いを行い、ご本人・ご家族がどのように望んでいるのか伺っています。また、話し合いは複数回行っていることがあります。	家族や利用者との入所時に討議します。事業所がやれることを明確にしています。看取り経験者のあるベテラン職員も多く、現場対応では訪問医と看護師との連携を的確に行います。ケアの内容は初期のものが変更される事が多く、その都度内容変更をします。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	会議・委員会・消防訓練等で振り返りを行い、実際起こった際の手順等確認を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昨年より年2回の消防署立ち合いの避難訓練を行っています。実際10月予定時には消防団の方もみえることになっていましたが、雨が降ったりやんだりだったので自主訓練となってしまいました。	年2回火災や水害訓練を、利用者と職員全員で行います。実施後は反省会を開き、改善点の洗い出しを行います。備蓄保管は水、リハビリパンツ、レトルト食料3日分を建物内に確保し管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今までの生活に近いような生活が送れるよう寄り添っています。また身体拘束虐待委員会が設置しているため、会議・研修等を行い、全職員で注意し対応しています。	法人と事業所でそれぞれが新入職者や現任に「個人の人格とプライバシー保護」の研修をしています。また接遇に関しても研修だけでなく管理者とベテラン職員で行うOJTを充実させています。「～さん」付けで呼んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中から、自己決定できるよう促し、そそるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先にならないよう常に気を付け、1人ひとりのペースを大切に希望により添えられるよう努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	指輪・時計等、今までおしゃれしていたことが継続できるよう支援しています。また、お化粧品等忘れてしまいがちな方には、誕生日等イベントの時に促しおしゃれができるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は皆で考えています。また、買物は移動スーパーをおおむね活用し、職員間に入り、各利用者のできることを把握し食事作り・片付けを行っています。（片付けはほぼ見守りにて複数の利用者で行っています。）	利用者の好みのメニューなど、利用者が喜ぶ手作りの食事を大切にしています。個々の残存能力を活かし、献立から買い物、調理も行っています。カロリー計算し、季節食、行事食、ケーキ作り、カラフル弁当の購入なども実施し「食べること」を大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医療との連携をとり、必要な量やバランス・水分量を確認を行い、食事形態等1人ひとりにあった形態を提供し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、場合によっては仕上げ磨きを行っています。また、訪問歯科による助言等いただき、口腔内の確認を行い、訪問歯科の際には報告を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄サインを見逃さず、声かけ・案内を行っています。また24時間の排泄チェックシートを活用し、職員間で把握するとともに案内を行い、トイレでの排泄ができるよう努めています。	訪問医や看護師と相談しながら、水分摂取量や排泄リズム記録の把握を行い、無理のない排泄に向かえるように支援しています。朝の体操やレクリエーション活動で排泄リズムを整えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	24時間排泄チェックシートを活用し、常に便秘には全職員気を付けています。また、薬等に頼らず自然排便ができるよう食事・運動（体を動かす）にも気を付け取り込んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本は週2日ですが、体調に合わせて行っています。また、ご本人希望にて2日以上入浴も行っています。また、1人で入浴される方には随時声かけをし対応しています。	週2回、午後を中心の入浴の他に、午前中の対応も行います。脱衣所の室温は26～27度に設定し、入浴時の体温変化にも気を付けています。ゆっくりと入浴してもらい、職員が利用者の想いを傾聴する大切な時間になるように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの生活習慣・体調を考慮し、休息をしていただき、夜間安心して眠れるよう日中の活動も考え支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診内容・服薬（内服チェックシートを手書きを行い）、全職員が把握できるよう努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人ひとりの出来るところを把握し、自ら動かれる際は止めることはせず行っていたりできるように支援し、食べたいおはぎ等みんなで作り、召し上がり楽しまれています。			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染症の為外出が難しい中ですが、ご家族に協力していただき、散歩などにいかれるよう支援しています。	コロナ禍により、遠出の外出は自粛していますが、週に1度スタッフが付き添い、近所を散歩しています。施設していない玄関先の広い敷地では、ベンチを設置し自由に外気浴も楽しむことができます。感染症対策を考慮した移動スーパーの買い物ができるような工夫もしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	移動スーパーでの買い物の際は、ご自分で支払いを行っていただけるよう支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	以前は手紙を投函できていましたが、現在は手紙を書くこと、電話をかけることが難しくなっていますが、ご家族に協力していただき、電話をかけていただき、お話ができるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の場所は職員が掃除を行い、廊下は利用者が1日2回モップ掛けを行い、昨年同様、新型コロナウイルス感染予防の為、利用者・職員と消毒等行っています。また、廊下などには写真・作品を飾り、会話ができるよう行っています。	広いリビングでは、車いすや歩行時のスペースを十分に確保し、安全面にも配慮しています。感染症対策を徹底し、清潔を心掛けています。利用者の手芸作品や活動の写真を壁や通路に飾り、会話が弾むような工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事以外は好きが所に座ることができ、お話ができるように支援しています。また、居室で好きなこと（趣味）等できるよう支援しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活に近づけられるよう、使い慣れたものや好きなものを持参し、再現できるよう利用者・ご家族に伝え工夫しています。	居室にはエアコン、照明、クロゼットが備え付けてあります。ゆったりとした広さを確保し、車いすの動線に配慮した家具の配置をしています。テレビ、壁掛け、写真や好みの置物などを置き、居心地良い清潔な環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人ひとりのできることを把握し、安心して生活できるよう、常に見守りを行い、不安そうな表情等していないか確認を行いより添えられるよう努めています。		

事業所名	グループホームえん
ユニット名	2F さざん

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所目標・理念等、事務所に掲示し、会議・朝礼・面談時に確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症の為交流できていません。今後、陽性患者数が落ち着いたらボランティア等以前のようにかかわれるようにしていきたいと思います。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方、問い合わせ等、随時行っているが、職場体験等の受け入れは昨年同様行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の為、開催は行えていませんが、地域の役員の方から電話をいただいたりしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	昨年同様、藤沢市グループホーム連絡会の開催は行われていませんが、介護保険課・他事業所の管理者との連絡は随時行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を開催し、○えん研修にて研修を行っています。また、日中は施錠せず 天気の良い日は玄関を開け換気し、屋外の出入りを行えるよう取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に虐待委員会を開催し、○○えん研修にて研修を行い、現場で起こりえることを想定しみんなで考え取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	面接・会議・研修等行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様・ご家族の不安や疑問をくみ取り、十分な時間を設け説明し契約を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話・面会等の際は近況のお話を行い、利用者様・ご家族からの意見等反映できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議・全体会議、日常の会話の中から職員の意見を聞き反映できるよう努めています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常に職員とのコミュニケーションを大切にし、各職員の得意分野を知ること、委員会など仕事をするうえで責任をもち、お互いが刺激となり知らないことを知ることによって質の向上が持てるよう努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	上記と重なるところがありますが、各職員選択研修を選び、また、向上してほしい課題など研修に取り組んだり努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	3年・7年目研修とありますが、新型コロナウイルス感染症等もあり中止となっていることがあります。また、デイサービスが併設されているため、デイサービス職員合同の研修を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来ること・出来ないこと・困っていること生活習慣等、常にコミュニケーションをとり、行動観察記録などで情報収集を行い、少しでも不安がなくなるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学・問い合わせ時にも伺っておりますが、再度契約時・入居後ご家族に伺い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅での生活リズムや困っているところや工夫されていること等をきき、ご本人・ご家族の要望等をきき計画書に反映できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の気持ちを大切にし、残存機能の維持及び認知症の進行を遅らせるよう生活の中で、自分のできることを行っていただくとともに、家事等みんなで助け合って生活できるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	請求書と一緒に1か月の生活等の報告（ご家族の手紙）を郵送し報告しています。また、面会等でお会いできないご家族には電話にて報告したりし、体調面等一緒に考えて行っています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症の為、馴染みの人や場所には行かれていませんが、馴染みの店の店員に協力していただき、ソーシャルディスタンスをとりながら話をいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症状・耳が聞こえずらい等ありますが、コミュニケーションがとれるよう職員が間に入り、関わりあえるよう工夫し、利用者様同士が車いすを押す姿がみられたり、困っているときのお互いの声かけの様子がみられています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても、いつでも連絡・相談等できるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会議・カンファレンス等で気づいたことなど、モニタリングを行い検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初回等の話からでは聞き取ることが難しいため、随時ご家族・ご本人から話を聞き取り、会議等で把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント・カンファレンスを行い、日常の会話・行動・仕草の中から情報収集を行い、記録（行動観察記録）をとり、会議等で把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人・ご家族の意向を確認するとともに、医療との連携も行い、また状態変化した際もカンファレンスやアセスメントを行い随時検討し作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画書の実施・生活の様子等記録に残すとともに、カンファレンス・会議等で話し合い随時見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染症の為外出が難しく、現在読書に好きな方がいらっしゃるた為、職員で話し合い図書館の方がご本人の好みをきき届けていただけるサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	密にならないよう気を付け、散歩を行っています。また、買い物が難しいこともあり、職員で話し合い、移動スーパーを週4日来ていただき、一緒に買い物を行い、好きなものを購入した際は喜ばれている姿がみられています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご家族受診または訪問診療にされるのか確認を行い、その際は情報等共有し医療連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問診療時に、情報を伝えアドバイス等いただいたり、週1回の看護職員には、職員とノートを活用し情報を共有し適切な看護が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やソーシャルワーカーとの連携をとり情報交換を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に説明を行い、早い段階からご家族・医師等話し合いを行い、ご本人・ご家族がどのように望んでいるのか伺っています。また、話し合いは複数回行っていることがあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	会議・委員会・消防訓練等で振り返りを行い、実際起こった際の手順等確認を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昨年より年2回の消防署立ち合いの避難訓練を行っています。実際10月予定時には消防団の方もみえることになっていましたが、雨が降ったりやんだりだったので自主訓練となってしまいました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今までの生活に近いような生活が送れるよう寄り添っています。また身体拘束虐待委員会が設置しているため、会議・研修等を行い、全職員で注意し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中から、自己決定できるよう促し、そそるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先にならないよう常に気を付け、1人ひとりのペースを大切に希望により添えられるよう努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	指輪・時計等、今までおしゃれしていたことが継続できるよう支援しています。また、お化粧品等忘れてしまいがちな方には、誕生日等イベントの時に促しおしゃれができるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は料理の本を用いて、目で見て食べたいものを聞き出し、1人ひとりのできることを職員と一緒にし食事し片付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医療との連携をとり、必要な量やバランス・水分量を確認を行い、食事形態等1人ひとりにあった形態を提供し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、場合によっては仕上げ磨きを行っています。また、訪問歯科による助言等いただき、口腔内の確認を行い、訪問歯科の際には報告を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄サインを見逃さず、声かけ・案内を行っています。また24時間の排泄チェックシートを活用し、職員間で把握するとともに案内を行い、トイレでの排泄ができるよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	24時間排泄チェックシートを活用し、常に便秘には全職員気を付けています。また、薬等に頼らず自然排便ができるよう食事・運動（体を動かす）にも気を付け取り込んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本は週2日ですが、体調に合わせて行っています。また、ご本人希望にて2日以上入浴も行っています。また、1人で入浴される方には随時声かけを対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの生活習慣・体調を考慮し、休息をしていただき、夜間安心して眠れるよう日中の活動も考え支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診内容・服薬（内服チェックシートを手書きを行い）、全職員が把握できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人ひとりの出来るところを把握し、自ら動かれる際は止めることはせず行っていたりできるように支援し、食べたいおはぎ等みんなで作り、召し上がり楽しまれています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染症の為外出が難しい中ですが、ご家族に協力していただき、散歩などにいかれるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	移動スーパーでの買い物の際は、ご自分で支払いを行っていただけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知症状があり手紙・電話が難しい方が多く、現在は面会に来られる方が増えてきている。今後も面会ができるよう新型コロナウイルス感染予防に努め支援していきます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自分のことができる方が、他の利用者のお世話をされたり、お話相手になってくださる方がいて、和まれている様子が見られています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事以外は好きが所に座ることができ、お話ができるように支援しています。また、居室で好きなこと（趣味）等できるよう支援しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今までの生活に近づけられるよう、使い慣れたものや好きなものを持参し、再現できるよう利用者・ご家族に伝え工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人ひとりのできることを把握し、安心して生活できるよう、常に見守りを行い、不安そうな表情等していないか確認を行いより添えられるよう努めています。		

2022年度

事業所名 グループホームえん

作成日：令和5年 5月22日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		事業目標が周知されていないことがある。	事業目標を周知し入居者・職員間での共有できるようにする。	職員間での会話・会議等で事業目標を取り入れながら話し合っていきます。	12ヶ月
2		新規の方が多く、1日でもはやく生活に慣れていただきたい。	新規の方は緊張されていることもみられるため、1日でも早くえんでの生活に慣れ顔なじみになって頂けるようになります。	新規の方と限定することなく、全体的に把握し、入居者同士がコミュニケーション等とれるようになります。	12ヶ月
3		既往歴のある方が多く、感染症等早期発見に努めたい。	感染症等、早期発見を心掛け、毎日元気に過ごしていただけるよう支援します。	日々の体調管理に気を付け、職員間で共有し、変化等みられる際はご家族・医療に繋げて行きます。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月